

小笠町

地形概況

菊川・牛湍川・小笠高橋川・丹野川にそう谷底低地が広がり自然堤防・後背湿地も発達する。丹野原・赤土原を含む牧の原台地、西南部の南山丘陵があり、侵食谷の谷頭部には丹野池をはじめため池が多い。支谷には段丘や崖錐が小規模に付着する。

地質概況

牧の原礫層や泥層からなる台地が東部にみられ、砂岩と泥岩の互層からなる掛川層群はその周辺の丘陵を形成する。菊川の沖積地は閉塞による泥層が厚く軟弱地盤である。南部には高位段丘礫層がのる南山丘陵があり、表層には砂層が堆積する。

気象概況

年平均気温が推定 15.5℃と県内でも気温が高い地域で、特に冬は暖かく真冬日がほとんどない。年平均降水量が推定 2,200mm と県平均よりやや少なく、5月から9月にかけて雨が多い。冬は日照時間が長く、県下でも西風の強い地域である。

災害事例 地震

- 1944年12月7日（昭和19年）東南海地震 M=7.9
県中・西部に被害が大きかった。小笠では、北地区で全壊337戸、半壊194戸、東地区で全壊37戸、半壊59戸、南地区で全壊27戸、半壊39戸の被害を生じた。また赤土・南山などで井戸水が地表に噴出したり、地割れから泥水の噴出があった。各地の震度は堤組・赤土・平田・西嶺田・堂山新田・西ヶ崎で7、中丹野で5～6、目木・丹野原・東組で5であった。
- 1854年12月23日（安政元年）安政東海地震 M=8.4
全県下にわたって被害が大きかった。当地でも大池村で家屋皆潰301戸、焼失家屋3戸をはじめ、赤土・中嶺田で多くの家が潰れた。また前岡・平川村・川上村・丹野村などは、いくらか潰家が少なかった。虚空蔵は少し傷みという。各地の震度は赤土・中嶺田・大池村で7、前岡・平川村・川上村・丹野村で5～6、虚空蔵で5である。
- 1498年9月20日（明応7年）明応地震 M=8.2～8.4
大地震で、人々は倒され、地の裂けた所から水が噴き出した。小笠での震度は6である。

災害事例 台風

- 1982年9月12日（昭和57年）台風18号
全県下で風水害があった。平田で472mm、南山で490mmの雨量があり、菊川上流の堤防が決壊した。被害は田畑冠水556ha、床上浸水58戸、床下浸水306戸である。
- 1954年9月19日（昭和29年）
全県下特に中・西部で風水害があった。当町での被害は床上浸水69戸、床下浸水

507 戸、堤防決壊 36 箇所、橋梁流失・護岸崩壊など被害 74 箇所である。

- 1938 年 7 月 30 日（昭和 13 年）
当町では床上浸水 208 戸、床下浸水 505 戸、耕地 15ha の被害があった。
- 1858 年 7 月 22 日（安政 5 年）午年の水
稀に見る大洪水で堤防の決壊が多く、菊川流域人家の流失など被害甚大であった。

災害事例 旱魃

- 1770（明和 7 年）
旧暦 4 月旱魃、畑作物枯死。
- 1693（元禄 6 年）
旧暦 5 月大旱魃

災害事例 冷害

- 1783（天明 3 年）
天明元年から引続く不作であったが、3 年には冷害を受け世に名高い“天明の飢饉”となった。全国の餓死者十余万人と生地獄そのままの態を呈した。続いて 4 年にも諸国が不作となり、5 年にも冷害を蒙り、連年の不作に農民の苦しみはその極に達した。